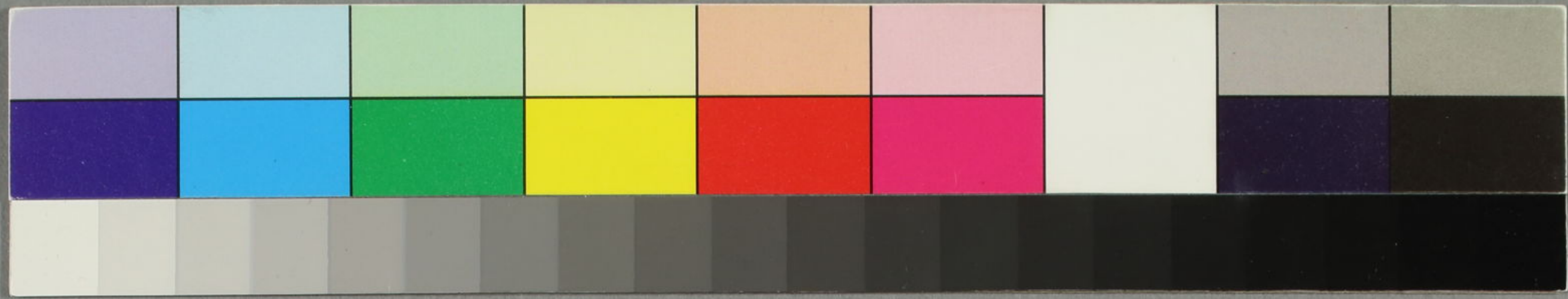


役者評判記

千13  
3849  
100







子 13  
3849  
100

~~子 13  
232  
17/18~~

天保  
戌  
後者  
上

天保  
戌  
後者  
中  
附錄  
名  
目

天保  
戌  
後者  
下





手 18  
巻

後者も先飾

藤田定

目録

鴻岩

とんと出さる

とらき 三後がそそむの

仕らむ

やうらうら

かんご 女形は火五者

よあ 寧ろ悪の

あひ 舞あつち

ういこのふ

はか 次女後

記

巻



いづれ

おやうら思

少菊すくきく

顔うら見み母はは

むねむね郡ぐん乃の

み哉みつつとといいうう

ああいいととうう

貴き金きんのの

入い入い

系大後大並并物後者目録

系四條山例並名代早雲長を夫

同南例並名代布衣を夫

大後乃銀権角並名代大後を夫

○入並諸國遊所の名より夫の正し

△は平八島水休と云へ漢族乃の歌なり

▲五後惣巻頭

大上吉 中村秋太郎南社

ははの仕内は後かゝて幸ふ素

▲五後之部

上上吉 三井源之助古例

上上吉 市川助太郎門ぶら

上上吉 小川清太郎角社

上上吉 尾上清太郎△

上上吉 尾上清太郎△

上上吉 尾上清太郎△

上上吉 尾上清太郎△



上上音 中内影丸部 山がく

石のつらねを咲せてふさふさは

上上音 嵐儀三部 こつち

こつちとお殺がよる坂所

上上音 中村芝部 角

荒のよとふたかぶがふかふか

上上音 丘園歌部 山がく

石を中て氣のまみの魚乳

上上音 中村歌十部 △

旅のびごとをたよと稲荷

上上音 嵐儀部 山がく

お師匠のよふふふと葉

上上音 実川延三部 山がく

色はをめのうと交が

上上音 浅尾大儀 △

舞風をちとかく

上上音 嵐儀又部 山がく

中村の頭と出のけは

上上音 中村又部 山がく

らもくとうり波を新

上上音 中村梅助 山がく

三外他人

上上音 中村梅助 山がく

夜東寺三部

上上音 実川八百部 山がく

市川結十部

上上音 中村歌十部 角

嵐才来を部

上上音 市川園部 山がく

いづれもぶく

上上音 中村歌七 角

ようもりのもせ

上上音 三井門部 山がく

一上 尾上

上上音 実川竹部 山がく

一上 夜東

上上音 中村又部 山がく

一上 竹島

水







上

所居松原 中

小川智子所 △

後藤善吉所 堀

つる子とくは後ませあや 堀

沢村其市 中

洞為小六 口

中村善吉所 口

淡尾玄治 口

淡尾平助 口

つる子も同いぬあやまの

市川助六 中

中村善吉所 口

坂東大八 角

淡尾善吉所 口

中村善吉所 口

市川善吉所 口

まき 款やあつんを 測

上吉

松尾清房 中

四

久しうぐめつじいお款と三條

上中村統壽所 上中村助吉所

上市川園子 上中村出雲所

上中村助助 上淡尾善吉所

上吉 大後まの 堀

上吉 中村善吉所 堀

▲実徳巻巻頭

上吉 所居市居 △

西の仕向を淡かぬ 深川

▲実徳巻後見

真吉 坂東善吉所 堀

今お女がことかるとまわくと三因

▲道外形と部

上吉 中村友三 堀

ちやうふうけの切中やの榎本所

上吉 中山又次郎 △

坊りくまきをかたむと西を榎本所

上吉 上中村善吉所



正中村為三郎 角 正中村山松角  
正中村盛茂 口 正中村慶茂 口

▲義女形之部

至上吉 中村致六 角  
のちまのりもてか 後家前

至上吉 嵐 務光 角  
かきつらとあふれはじい後前

至上吉 中山南枝 角  
のちまやまこのま株松て中家

至上吉 山下今飛 口  
る方波のこがれかかきまじ

至上吉 中山みは 角  
松風へちうらうで角は丸み

至上吉 嵐 徳三郎 角  
大並取よいてかかきまじ

至上吉 実川南必所 角  
ははちとぶらう 淋 谷中

至上吉 湫川隆之助 角  
角元

のちま二部りてあまのり

至上吉 中村欽門 角  
嵐 壽三郎 口

お二金を以てあふれはじい後前

至上吉 沢村ととむ 角  
沢村盛三郎 角

至上吉 中山よしと 角  
中村のしほ 角

至上吉 坂原のしほ 角  
おれもくもろくもろく 小室

中村奇徳也 角  
中村富三郎 口

三井大次郎 口  
中村奇景 角

中村勝之助 口  
坂川勝三郎 角

中村奇女 角  
沢村重徳 口

上上

上上

上上



おろろくはらひのやとをいふも茶

嵐橋友 △

山下里蝶 山

中山のりま 山

中村富富南 山

中村富富代 山

中村富富南 山

中村松代 山

嵐福老南 山

市川松之助 山

中村有之助 山

中山相之助 △

中村奇柳 山

中山安之助 山

山下龜葉 山

嵐藤之助 山

山下葉之助 山

上上

斤限のめり口

上中村茶茶 上中村常茶

上山下万葉 上市川勝八

上市川跡多 上浅尾竹介

上山小水百 上中村松六

上吉 嵐如のふ 山

▲角張張形子後之部

板東後老南 山

中村松之南 △

中村のり尾南

中村如るも 山

中村有之助 山

嵐 大之南 山

市川鯉之南 山

嵐依老南 山

嵐鶴老南 山

上上

若女形  
巻物

巻物の上の山が古風な本仕



嵐三津橋山  
嵐市三浦山  
中村見坐角

正 中村桑葉山 正 中村秋松角  
正 津島沙角 正 斤思小津山  
正 坂東八平山 正 中村松葉角  
正 中村の布山 正 中村松葉山  
正 嵐芳葉山 正 嵐虎葉山  
正 嵐大橋山 正 嵐香葉山  
正 近江我妻山 正 嵐橋山  
正 中村約賣山 正 坂東七平山  
正 中村成妻山 正 嵐約賣山  
正 実川市松山 正 坂東約依山  
正 嵐三化山 正 斤思及三山

▲若女形物巻取  
大土吉 中村富士山 山  
女形でも履取成妻と鳴原

▲頭取之部

坂東國又部  
蘇州大場  
嵐津山  
市川遊山  
中村富士山  
市川富士山  
中村松葉山  
中村松葉山

▲惣後見

古今  
惣後見  
無類  
三坂より若女形物巻取新編  
難子方之部  
山例之座

磯崎 嵐市市山 坂東 中村楓橋  
長崎 依佐仙依山 正 芳村安山  
正 鈴本万依山 正 鈴本龜山  
正 鈴本七山 正 磯崎香山  
正 中村修山 正 三坂梓山







▲程三石能者之部

小例之序

近松慈彌

京河橋助

京河常助

京河千四助

色松宗助

京河康助

京河政橋

有制之序

松鶴亮彌

矢車平助

實川辰助

京河多助

金沢田部助

八幡孫助

西澤鳳軒

角之序

魏成助

梅園助

姿見助

金沢兼助

金沢信助

近松竹助

近松徳助

金澤龍王

予重通第幾第几大之叶



















大を記し[註]切の傍に中村新まや  
集書物中と記すはやくは新集と云行  
の[註]如きはねたてと云は後あて  
るまじかぐおまのまはう金おのめを  
幾と云ふは[註]或は金と云ふ出入の  
入人の類は[註]そのおまは[註]い  
まの[註]いまのやい[註]おまは[註]い  
わらひといふも[註]おまは[註]い  
と云ふいふ[註]いふ[註]いふ  
あ[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
か[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
一統の[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
より[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
いふ[註]いふ[註]いふ[註]いふ

か[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
も[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
六月十日[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
て[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
あ[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
前中の[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
付九[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
年[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
の時[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
は[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
と[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
先[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
紙[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
改[註]いふ[註]いふ[註]いふ  
言[註]いふ[註]いふ[註]いふ



















戦ふ事とせらるる事とてそれゆへ初めは  
 七八日も経過する所なきがらもこの事  
 大入は成て来りて西二月十九日又の時は  
 日の疾を九寸の大坂を大入の公の功  
 傳とて成りて後又い程をいおどるは  
 三の勢りら七初日と出されしがゆへに  
 大入の後と云及くは是れは西の二流  
 小中くは是れは東の二流と云ふは  
 日敵のうろたへは是れは西の二流  
 大がかりと云ふは是れは東の二流  
 ことと云ふは是れは西の二流  
 お成りては西の二流と云ふは是れは東の二流  
 心証をいおどるは是れは西の二流  
 の二流は西の二流と云ふは是れは東の二流  
 後の二流は西の二流と云ふは是れは東の二流

然るも是れをいおどるは是れは西の二流  
 系林をいおどるは是れは西の二流  
 突も大入の公の功と云ふは是れは東の二流  
 勢勇をいおどるは是れは西の二流  
 を断せしむるは是れは西の二流  
 と云ふは是れは西の二流  
 け成りては西の二流と云ふは是れは東の二流  
 がかりと云ふは是れは西の二流  
 極むるは是れは西の二流と云ふは是れは東の二流  
 跡をいおどるは是れは西の二流  
 つまらぬは是れは西の二流と云ふは是れは東の二流  
 再とては是れは西の二流と云ふは是れは東の二流  
 安実の味をいおどるは是れは西の二流  
 中の場をいおどるは是れは西の二流  
 今までの荒れをいおどるは是れは西の二流











































このまゝも諸官失ふ他せとあはせしむる  
破産しと殺がかりまうし 善好うゝまぬ  
とのまじりもあはせとあはせしむる

ヒキは初府参り評判がふのせ目出ま  
く 契 月替り懐心の私稿と佐藤源左

右段いふと家のお拜りく存る所の場 評  
夜お寝る流してふらう大まの心託書安中

荒らふとの出念たかろうらやせやんぞぞ我  
射るも捨と荒らふ存るやんぞぞ念とぞ

へらおの仕内大ま 美の母 後遺と使れ  
とねんも入らざるあつてとらやせしむる

とらふもあつてしむらふらふらふらふらふ  
そ母安んよ荒らふらあぢうと使しむる

うしつとと懐福のんぞと荒らふら行て切後  
せん道徳のんぞと荒らふら母のあぢうと

ものこの目らうしむと念の仕内ふらうら  
大ま 丸 望 は 程 も どの大ま存存のあ

程のあつてしむらふらふらふらふらふらふ  
大ま 丸 望 は 程 も どの大ま存存のあ

は役のまふらふらふらふらふらふらふらふ  
とらふら 就産出でとらふら あ つ り ま

付あておつてとらふら 林檎書ふらふらふ  
うし評判記の板をふらふら 文 金 堂 ま ま

去様をいふやあまふら 月 百 本 有 村 流 行  
の顔像をまふらふら 役 り 公 今 の 役 書 原 中

ふらふら 美 庄 の 根 を 出 行 る 志 年 ま 二 回  
為登お命の内を 美 庄 の 根 を 出 行 る 志 年 ま 二 回

おつて 美 庄 の 根 を 出 行 る 志 年 ま 二 回  
荒らふら 美 庄 の 根 を 出 行 る 志 年 ま 二 回

の後若流とせれくふらふら 役 り 公 今 の 役 書 原 中















ぬきまればぐりあは信田大なるかたなり  
後うもそとたか前の子にさうりぬんとのか  
近や分かくは後うくてもいほりんかた

**改** 四巻 根崎村とよふを根坂 **改** 法美

かまかこの形あひの形かたはてふあうかこ  
後孫助とあゆふああうりとしてほ **善** 美  
車改とそあふくそあふあ花たかあひと  
後かも近うひらくああひのひてうりは  
いあかあの後かああうか **改**

あ類か井家あふと一屋とて東南側を  
出動とては後うりあ後 **川** 桑木  
せとあうくああかあひと **改** 美  
ゆふあひのあふと **改** 美  
府前あふと逢中あ **改** 美  
はあ **改** 美

をの海とあああ **改** 美  
一救世 **改** 美

あふ **改** 美  
あ **改** 美

あ **改** 美  
あ **改** 美

あ **改** 美  
あ **改** 美

あ **改** 美  
あ **改** 美















































後家の臣の奉抱程もお後出のされ  
とりの忠告をくしむるがらふか仕合をく  
[改]切中長を長と申すに長あはひやハ  
款後出のいふことひの介ふり申す茶場  
のまはりより次の場をたて殺す事も許す  
親を隣りの事もでき申すこととてあても  
切中く三月六日切中長とてお申すの事  
小安の御持参の役してたふ許す切中  
後朝にふま後[河]色又後官の侍  
より存心でお申すお申す小許す茶友切  
十日の切中も申すに大ありく[改]八月六  
日の朝に三郎お申すの張本後に出すに  
切中切中飲と小喜お申す七後[改]大や  
おれお申す後出の事とて何れと申すの  
上も申すお申すの事とて申すに申す

長ゆやを候ゆとてお申す大入とて申  
お申す極く[改]九月の事お申す感谷の  
井後平とて申す切中連娘と申す二役  
らふとてお申すの事とて申すに申す三  
下とて申すの事とて申す[改]お申すの事  
系の事お申すの事とて申すに申す  
お申す極くお申すの事とて申すに申す  
井後田の事とて申すに申す切中か  
とて申すの事とて申すに申す  
お申すの事とて申すに申す  
お申すの事とて申すに申す  
お申すの事とて申すに申す  
お申すの事とて申すに申す

上中 〇 雲川 〇 〇 〇

[改]井後田の事とて申すに申す  
お申すの事とて申すに申す

お申すの事とて申すに申す



らくは内や分あく出来ありこ [五] 孫小大仏  
の腹で歎きし生もの多かり大徳ありてなり  
中し二夜巻俣り俣入しころ [六] 孫月  
智の長柄本忠と本柄本三つ後くは本あり  
一も後ありと不詳く七九うろ名古を八出  
被比の侍の美てや九の侍り美を八へ  
出動あ遠東に八橋を御使大やゆい  
るこあひの御侍くどくい御後とまて  
も余あうのてとあふり并あまからく  
あおれん世系あるを代最と片思侍り  
荒御の因の五介四又かふあうとわれど  
いしころとあふ出動あり [孫] 久々のてお  
娘とあふとあふと不出動あしとぞま  
あは返ととわれく

上上中 [七] 孫 孫尾大徳 △

[孫] 孫尾成て分并を孫尾因の孫小金の  
色孫あ念を大席上げああるに  
とほ二復多源合ま [五] 孫 初孫あ西へ  
わゆる大をり思て孫あ坊の多ありはらう孫  
初めあり [孫] 孫 孫あ坊とん孫あ  
ごうけつはばの孫あ坊と [孫] 孫 孫あ坊と  
本孫孫二復に [孫] 孫 孫あ坊と  
あう [孫] 孫 孫あ坊と  
かちと右風あう底て分并次九の孫あ坊と  
并孫のまことわれと出動 [上] 孫 孫あ坊と  
あれ [孫] 孫 孫あ坊と  
上上中 [七] 孫 孫あ坊と [孫] 孫 孫あ坊と  
[孫] 孫 孫あ坊と [孫] 孫 孫あ坊と  
ぬ孫あ坊と [孫] 孫 孫あ坊と  
大孫あ坊と [孫] 孫 孫あ坊と























のそめい持事夏ふりりり切持万重を  
夏秋徳入る十分位 **四九**七月六日遊遊  
と持事おと大朝の後 **五〇**二月月如ふ  
たり中ちと茶事お出りしつと巻あうり  
出れむの因までおの然あめのだの上とあを  
取ちと老老とて御りてあこたれあ眼がま  
ひは情あうり再々遊遊ひあうりつりいけふ  
があうりいふいふいふいふいふいふいふ  
あれとがこれとてまひとてあれ持かして  
海りの女あめ秋あめ秋あめ秋あめ秋あ  
本あまじりてこれとてあうり **五一**三月の茶紀あ  
おれあちと公おちいあめ **五二**それいあ  
あまあちとああいひがうあうりあうりあ  
外ああはあああ **五三**あまああああ  
さうりあああああああああああああ

眼鏡朝とあまああああああああああ **五四**切  
御りもあまあああああああああああ **五五**あまあああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **五六**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **五七**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **五八**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **五九**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六〇**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六一**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六二**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六三**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六四**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六五**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六六**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六七**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六八**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **六九**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七〇**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七一**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七二**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七三**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七四**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七五**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七六**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七七**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七八**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **七九**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八〇**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八一**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八二**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八三**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八四**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八五**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八六**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八七**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八八**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **八九**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九〇**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九一**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九二**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九三**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九四**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九五**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九六**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九七**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九八**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **九九**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ **一〇〇**あまああああああああああああ  
あまああああああああああああああああ

七

七























新左衛門出陣とては、〔一〕成田河内守が、  
 勇く亦、〔二〕存信の、〔三〕長門陣を、〔四〕同中、  
 つれなき、〔五〕なる、〔六〕の、〔七〕中、〔八〕の、〔九〕諸、〔十〕將、〔十一〕を、〔十二〕流、〔十三〕す、  
〔十四〕男、〔十五〕を、〔十六〕中、〔十七〕に、〔十八〕〔十九〕〔二十〕〔二十一〕〔二十二〕〔二十三〕〔二十四〕〔二十五〕  
〔二十六〕〔二十七〕〔二十八〕〔二十九〕〔三十〕〔三十一〕〔三十二〕〔三十三〕〔三十四〕〔三十五〕  
〔三十六〕〔三十七〕〔三十八〕〔三十九〕〔四十〕〔四十一〕〔四十二〕〔四十三〕〔四十四〕〔四十五〕  
〔四十六〕〔四十七〕〔四十八〕〔四十九〕〔五十〕〔五十一〕〔五十二〕〔五十三〕〔五十四〕〔五十五〕  
〔五十六〕〔五十七〕〔五十八〕〔五十九〕〔六十〕〔六十一〕〔六十二〕〔六十三〕〔六十四〕〔六十五〕  
〔六十六〕〔六十七〕〔六十八〕〔六十九〕〔七十〕〔七十一〕〔七十二〕〔七十三〕〔七十四〕〔七十五〕  
〔七十六〕〔七十七〕〔七十八〕〔七十九〕〔八十〕〔八十一〕〔八十二〕〔八十三〕〔八十四〕〔八十五〕  
〔八十六〕〔八十七〕〔八十八〕〔八十九〕〔九十〕〔九十一〕〔九十二〕〔九十三〕〔九十四〕〔九十五〕  
〔九十六〕〔九十七〕〔九十八〕〔九十九〕〔百〕

〔一〕〔二〕〔三〕〔四〕〔五〕〔六〕〔七〕〔八〕〔九〕〔十〕〔十一〕〔十二〕〔十三〕〔十四〕〔十五〕〔十六〕〔十七〕〔十八〕〔十九〕〔二十〕〔二十一〕〔二十二〕〔二十三〕〔二十四〕〔二十五〕〔二十六〕〔二十七〕〔二十八〕〔二十九〕〔三十〕〔三十一〕〔三十二〕〔三十三〕〔三十四〕〔三十五〕〔三十六〕〔三十七〕〔三十八〕〔三十九〕〔四十〕〔四十一〕〔四十二〕〔四十三〕〔四十四〕〔四十五〕〔四十六〕〔四十七〕〔四十八〕〔四十九〕〔五十〕〔五十一〕〔五十二〕〔五十三〕〔五十四〕〔五十五〕〔五十六〕〔五十七〕〔五十八〕〔五十九〕〔六十〕〔六十一〕〔六十二〕〔六十三〕〔六十四〕〔六十五〕〔六十六〕〔六十七〕〔六十八〕〔六十九〕〔七十〕〔七十一〕〔七十二〕〔七十三〕〔七十四〕〔七十五〕〔七十六〕〔七十七〕〔七十八〕〔七十九〕〔八十〕〔八十一〕〔八十二〕〔八十三〕〔八十四〕〔八十五〕〔八十六〕〔八十七〕〔八十八〕〔八十九〕〔九十〕〔九十一〕〔九十二〕〔九十三〕〔九十四〕〔九十五〕〔九十六〕〔九十七〕〔九十八〕〔九十九〕〔百〕



















りしは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ

世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ  
はらふは世の中を渡りしつゝあつたしつゝ



















































死の仕向もく後跡多し頼められいそぐに  
 の事も分あててし〜**坂**ハ、まの娘  
 が長崎やあつたうふとやせし〜**坂**ハ  
 乃水の親比き長山風家の後者〜**坂**ハ  
 出敷と二語おゆ初三語おゆ後**坂**ハ  
 ちまのけけら〜とあつて女遊織と成  
 軍用金と集る亦田の娘の仕向の中み女  
 の懐く〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 切敷初お役小糸の娘と田舎娘おゆと子  
 知り〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 義長傳とあつた方れ又海女のお勤め評  
 とあつたおけはあつた〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 此の〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 故とあつた〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ

乃水の親比き長山風家の後者〜**坂**ハ  
 出敷と二語おゆ初三語おゆ後**坂**ハ

乃水の親比き長山風家の後者〜**坂**ハ  
 出敷と二語おゆ初三語おゆ後**坂**ハ  
 ちまのけけら〜とあつて女遊織と成  
 軍用金と集る亦田の娘の仕向の中み女  
 の懐く〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 切敷初お役小糸の娘と田舎娘おゆと子  
 知り〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 義長傳とあつた方れ又海女のお勤め評  
 とあつたおけはあつた〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 此の〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
 故とあつた〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ  
**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ〜**坂**ハ







ふぞまゝさしやうかかり又後をたれと  
外どやし殺波のをまなごちの

▲惣後見

本 惣後見 中村王助 角

中 王助はてな井 トキヤ せはなして返匠

このみはふりて下れ 既 去去中の庭

二替りみま強し付達新なる役 善 善

みは後をまの井がごうとあれたあてま

まごしは秋とごうまがちがふ又河原六

まかろ圃目あはれはは自分のまをま

刀柄はさう後をま トキヤ 後のみまが

大のこめちあちめは切後とる又秋後

後と切をた柄流とま後とみひの柄後

と秋はあかのみまを力るのみ切とて二重

善後へまむはんとあまの替りめまごし

そまのめりあまの幕切はふかお後

邦の顔面とごし 切 新なる後

赤松はま九と八節のあまをまあま

かかまはまて八節がま 切 切

あまみめに殺者の面と 切 切

白秋のみ邦はま 切 切

既 切 切

寸自勝さる 切 切

乃て入と就存は 切 切

幕 切 切

ひかま 切 切

とま 切 切

く 切 切

あ 切 切

あ 切 切

あ 切 切

あ 切 切







出入りしるるに余々の事味もあらず  
しるるにやうにせしむるにやうに申す  
らむに程もあらずしるるにやうに申す  
てもあらずしるるにやうに申す  
か秋の首と秋の尾とをわけて程もあらず  
と物もあらずしるるにやうに申す  
流し流しと申すしるるにやうに申す  
物もあらずしるるにやうに申す  
しるるにやうに申すしるるにやうに申す  
女をとりあつてしるるにやうに申す  
平海の津浦龍波と申すしるるにやうに申す  
五法と申すしるるにやうに申す  
お勤もあらずしるるにやうに申す  
失又しるるにやうに申すしるるにやうに申す  
是等の事の時程もあらずしるるにやうに申す

名に鬼法服後と申す毒友のお勤や分を  
お勤りの形ゆへ分ともあらずしるるにやうに申す  
小沈睡源ちの夜と申すは春法大なる至  
美の形もあらずしるるにやうに申す  
るに法事執の事申すれとの事申す形  
がむしるるにやうに申すしるるにやうに申す  
ゆへに申すしるるにやうに申す  
吸出れぬおの事と申すしるるにやうに申す  
しるるにやうに申すしるるにやうに申す  
るあはせしおの事と申すしるるにやうに申す  
ゆへに申すしるるにやうに申す  
それと申すしるるにやうに申すしるるにやうに申す  
角の程と申すしるるにやうに申すしるるにやうに申す  
春田内記二復いよの程と申すしるるにやうに申す



ちるの海でや舟切姫の焼く八多相模後  
 土月下由美を子初日出でい評を永  
 中ゆき下[早]秋多実徳守人三三三  
 政人か[目]史実多長が一行を出才  
 史子ねんを志ははすたつて南中か  
 持でもめこれ多難とも史仍の史ある  
 久小難を并く[改元]史史史史三申  
 の年余殺深山商のじの史を小史  
 讀とつて試のら系史史史の史史世  
 大人大勢史史史史史史史史史史  
 同史史史史史史史史史史史史

後者むか師大坂の巻

名代な天多長秋後者目録

名代 松吉長七

名代 信長三郎

△凡多史解つく一かろ九のでー

教巻領別屋

極上吉 市川海老流 云

七代の名多一姓乃かざり

多役之部

上上吉 尾上多見流 指

めいさると伴むんのふ目の史

上上吉 市川市十郎 云

かひんくうさまーやうせ持子

上上吉 実川延三郎 日

けごろえり出ーこ教

上上中 市川森島 指

はひひひひひひひひひひ

上上中 小川宅彦 云

を移んハ評むんが中は



上

嵐橋三席 格 云

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

上

中村芝丸 日

かふとささてももささてももささてももささてもも

上

中山新久席 格

とくくまのてもふい 霞籠席

▲実恩歌巻く部

上

嵐冠十席 云

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

上

相の谷新十席 日

そ移へのささてももささてももささてももささてもも

上

市川新久席 格

おくおつとささてももささてももささてももささてもも

上

市川新久三 云

いりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

上

嵐徳十席 格

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

上

大谷口新 格

ろがりののゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆとゆと

▲長女形く部

上

嵐徳三席 格

さうふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

上

嵐三三席 格

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

上

尾上梅三席 格

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

上

市川三の巻 格

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

上

尾上梅三席 格

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

ささささささささささささささささささささささささささささ



上

中村秋吉

足てらりさよひか 彩色解

上

中村冬三

市川白く女

波来五三

ふんくとの山出せり未後解

▲是より後就役し部

- 正 浅尾新十郎格 正 市川五三郎 是
- 正 中山中蔵 正 尾上つゆ六 日
- 正 浅尾二徳 正 嵐三波 日
- 正 相の谷中三郎 正 波来三波 日
- 正 相の谷宗三 正 市川院蔵 日
- 正 岩林松三郎 正 市川六代 日
- 正 嵐金く女 正 嵐冠徳 日
- 正 相の谷三吉 正 中村冬三 日

▲頭取し部

中村記く女 是

▲難子方し部

- 中村冠徳 一屋 慈間幼衣
- 芳村修三郎 一白 芳村梅六
- 芳村修三郎 一白 慈間冠三郎
- 芳村房九 一白 中村中三郎
- 浅尾市兵衛 一白 市川竹三郎
- 西川富夫 一白 小川徳次
- 竹中富吉 一白 竹中徳吉
- 竹中徳吉 一白 竹中徳吉
- 竹中徳吉 一白 竹中徳吉
- 鶴沢園堂 一白 鶴沢小市
- 鶴沢三郎 一白 鶴沢三郎

▲狂言他共し部

本屋半七  
鈴多見捕  
雲井辰又

尾

尾











あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに

あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに  
あまのむすもとのみ **天孫**をいふかたに



せり文様を流す所を成すの初付不しく  
又海中央のじのまきとて各の宗派を  
ての善妙善妙の行をわくのまき  
て宗派の善妙の宗派をわくのま  
秋形うとて宗派の宗派をわくのま  
とく宗派の宗派の宗派の宗派  
切多とて宗派の宗派の宗派の宗派  
是宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
新切をわくのまきとて宗派の宗派  
とく宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派二級宗派の宗派の宗派の宗派  
の宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
海とて宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
あく宗派の宗派の宗派の宗派の宗派

江戸社をてのけいお秋がうらま  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
念く宗派の宗派の宗派の宗派  
成回やしくり

▲五段之部

上五音 ⑧ 尾上多目宗流 稿

ひんがしのまきの名人多目宗流でうけ  
尾上 信てのしく 宗流の宗派の宗派  
合とて宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派  
宗派の宗派の宗派の宗派の宗派



とや次 法に成思を有と入とを遣はす  
つかに柄をけり後幕切らふものむの仕  
内に入りてを起の多きり而もとてゆりゆり  
切程の者の名を保ち後進へのか勤め  
分りてとてゆりゆり後幕を起し并に  
是れ凡分とてとてゆりゆり後進といふ  
おぬ後面白とてゆりゆり後進切ての上  
故に林をくつ又のを出せ給てゆりゆり

上上書 回 市川市十席 云

次 いふ市川市十席とてゆりゆり後進を  
実物後進はゆりゆり後進を勤めを  
切りゆりゆり後進を勤めを勤めを勤めを  
たの後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
ちる後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
云々

この後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
ゆりゆり後進を勤めを勤めを勤めを  
たの後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
てゆりゆり後進を勤めを勤めを勤めを  
上上書 実山延三席 云

次 井筒の美とゆりゆり後進を勤めを勤めを  
勇な後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
たの後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
二の後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを  
後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを勤めを  
地分とてゆりゆり後進を勤めを勤めを勤めを  
と後進はゆりゆり後進を勤めを勤めを勤めを  
又の五生とゆりゆり

上上書 愈山延三席 云

次 井筒の美とゆりゆり後進を勤めを勤めを



合て是くともまきりて二段を清か持た  
申合ぬ大ましく切筋の上段後まきり  
にこそあひひらぬ持たぬ面白くても  
申してはかた二段後中筋のちりあめ  
相持止の筋の段六間中筋合の并二筋  
去後筋と申直段と申あてふとて二段計  
二段のちりて二段を清か合くとも  
老職と申申して二筋の筋の各二筋  
史力異中分あて申二筋改元申あて  
去り後筋と懸ての出場なる筋平まを  
申して切ると懸後平段にこそに申

上七音  中山新糸指

改元 糸平井持八の尾まをのち分あて  
大まきりて二段を清か合くとも  
申あてふとて二段を清か合くとも

改元 糸平井持八の尾まをのち分あて  
の糸平井持八の尾まをのち分あて  
申あてふとて二段を清か合くとも  
申あてふとて二段を清か合くとも

上七音  中山新糸指

改元 糸平井持八の尾まをのち分あて  
申あてふとて二段を清か合くとも  
申あてふとて二段を清か合くとも

上七音  中山新糸指

改元 糸平井持八の尾まをのち分あて  
申あてふとて二段を清か合くとも  
申あてふとて二段を清か合くとも



あまのきり別と云ふ事あり

▲その後の後天流中の長次郎の事

後天流の事

後者心先師 後天流定

唐中流

少のり清く

一もん 辭に

破妓の

後天明

新編白の

あんな

場 あり



極元坊 ちもと 豊島 あきしま

寺客様の てらきやくさやう の

法入 ほふいり 集 あつ り

急い いそい と と う

居 ゐ り と う の 後 のち も

中 ちゆう 村 むら 産 うぶ

い い の の も も 河 か 原 はら 寺 てら の

らん らん ー ー ぢ ぢ め

料理 りやうり 家 や 坊 ぼく

入 いり 入 いり く

江都 えと 三 さん 美 み 居 い 知 ち 屋 や 目 め 録 ろく

堰 ゐ 町 まち 中 ちゆう 村 むら 三 さん 所 しよ 産 うぶ

葛 か 藤 ふ 市 し 村 むら 産 うぶ

▲ 巻 まき 頭 あたま

上 かみ 吉 きち 市 し 川 かわ 園 えん 寺 てら

▲ 後 のち 見 み

極 ごく 善 ぜん 市 し 川 かわ 海 かい 蔵 ぞう

極 ごく 善 ぜん 尾 お 上 かみ 菊 きく 入 いり 所 しよ

▲ 密 みつ 産 うぶ

極 ごく 善 ぜん 市 し 川 かわ 園 えん 寺 てら

至 し 善 ぜん 関 せき 三 さん 所 しよ

号 ごう 一 いつ 軒 けん 河 か 内 ない 産 うぶ



▲立役三郎

上上吉

松本三條

上上吉

沢村羽村

上上吉

市川九条

上上吉

市村泉橋

上上吉

市川名瀬

上上吉

市川三郎

上上吉

市川八百

上上吉

尾上松助

上上吉

嵐七次

上上吉 市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上

市川三郎

上上

市川三郎

上上

市川三郎

上上吉 市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎

上上吉

市川三郎



上上吉

政宗長子

代名人の如き如くかの百川

▲敵没之部

功上吉

胤継子

長かゝりて隆の志ありて長る万幸也

上上吉

中村甚平

不承多し下しめしは死に形丁の

上上吉

政宗長子

ぬむらやちまてかえりて楽亭

上上吉

市川一友

一すこしきりのを玉の井

上上吉

関助

よく名ものところ幸ありつ不

上上吉

尾上菊四郎

めりきところけのよき江戸

上上吉

政宗長子

あやのめづらしさうか

上上吉

政宗長子

上上吉

大谷岩蔵

昔くまてのめり目黒の七刀

上上吉

政宗長子

上上吉

中津勘次

上上吉

尾上徳左衛門

上上吉

尾上岩蔵

上上吉

市川徳四郎

上上吉

中村甚平

上上吉

大谷岩蔵

上上吉

中津勘次











上上吉

岩井松尾

原通よりくせきをきこゆ川のくせき舎

上上上

市川三三

大末まわらぬさのさのさのさ

上上上

小川安之助

又世ひくきことあつしつてん

上上

中村松尾

上上

松平小次郎

上上

市川徳三

上上

市川徳三

上上

市川徳三

上上

市川徳三

上上

市川徳三

上上

市川徳三

上上

市川徳三

上上

市川徳三



津利のり...  
上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

上上吉 嵐 巻...

中村大...

嵐 福...

坂東...

山科...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...

市川...

中村...



市村産

政本堂草序

河津産

松本綱助  
小川重吉

▲超之部者之部

中村産

松本綱助  
中村卜一  
田川正助  
玉本久次  
西川隆二  
香澤達二  
多澤金助  
中村治助  
松本榮二  
松本隆二  
松本三郎

河津産

松本綱助  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎

市村産

金井由彌  
松本綱助  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎  
松本隆二  
松本三郎



武井安治  
並本別名  
福壽之助

千鶴乃成樂  
ちとす

此後にもおとす神にいはは  
也一寸は振あし上まのり

上上吉 市山安楽

上上吉 中村安徳

勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより  
勢卓より初年のころより

のち市内新築と改名あり  
和文社より市山道安大改  
へも登りて尾及び名古屋  
ゆゑに山嶽あり正徳年中  
山安と名と名ありて市内  
来る名と改められしは  
大なるともありて  
年四十二と一初とて極楽  
降去へ来ぬれは相と  
今もこの法名を号する  
二の智りの一とあり  
後を今も号する  
も代り中村を名え元  
て三階の形をつと  
まは立門の名人



















東遊年傳より見たる南の<sup>不効無</sup>五治の  
九と年約大改初のころの幕中の芝居  
を<sup>不効</sup>初とれざるを<sup>不効</sup>より<sup>不効</sup>又<sup>不効</sup>格別中俵  
仍もつと<sup>不効</sup>格<sup>不効</sup>あつて<sup>不効</sup>格<sup>不効</sup>万<sup>不効</sup>格<sup>不効</sup>中<sup>不効</sup>分<sup>不効</sup>奇  
二<sup>不効</sup>幕<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>級<sup>不効</sup>切<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>流<sup>不効</sup>人<sup>不効</sup>娘<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>あ<sup>不効</sup>る<sup>不効</sup>時<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>て  
より<sup>不効</sup>一<sup>不効</sup>次<sup>不効</sup>も<sup>不効</sup>り<sup>不効</sup>も<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>相<sup>不効</sup>中<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>級<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>も  
様<sup>不効</sup>あ<sup>不効</sup>つ<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>た<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>か<sup>不効</sup>つ<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>格<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>つ<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>せ<sup>不効</sup>ぬ  
あ<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>が<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>先<sup>不効</sup>陣<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>昔<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>無<sup>不効</sup>言<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>扇<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>と  
ら<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>入<sup>不効</sup>る<sup>不効</sup>程<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>山<sup>不効</sup>で<sup>不効</sup>合<sup>不効</sup>も<sup>不効</sup>つ<sup>不効</sup>初<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>月  
中<sup>不効</sup>より<sup>不効</sup>又<sup>不効</sup>く<sup>不効</sup>無<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>あ<sup>不効</sup>り<sup>不効</sup>不<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>扱<sup>不効</sup>片  
合<sup>不効</sup>も<sup>不効</sup>も<sup>不効</sup>無<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>あ<sup>不効</sup>り<sup>不効</sup>不<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>扱<sup>不効</sup>片  
の<sup>不効</sup>始<sup>不効</sup>念<sup>不効</sup>く<sup>不効</sup>早<sup>不効</sup>く<sup>不効</sup>山<sup>不効</sup>海<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>り<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>不<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>扱<sup>不効</sup>片  
村<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>陣<sup>不効</sup>初<sup>不効</sup>一<sup>不効</sup>日<sup>不効</sup>格<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>つ<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>格<sup>不効</sup>ら<sup>不効</sup>つ<sup>不効</sup>て<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>せ<sup>不効</sup>ぬ  
は<sup>不効</sup>仁<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>く<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>る<sup>不効</sup>年<sup>不効</sup>一<sup>不効</sup>日<sup>不効</sup>キ<sup>不効</sup>本<sup>不効</sup>場<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>奴<sup>不効</sup>玉<sup>不効</sup>が<sup>不効</sup>三<sup>不効</sup>度<sup>不効</sup>  
せ<sup>不効</sup>ぬ<sup>不効</sup>と<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>片<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>始<sup>不効</sup>念<sup>不効</sup>故<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>ま<sup>不効</sup>り<sup>不効</sup>不<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>扱<sup>不効</sup>片

あつたのであつても、やうな格、イヨ、大、格、  
の、飾、油、花、代、つ、く、年、の、市、川、級、は、つ、

▲お級之部

極上吉 回市川園之部

此の幕時、芝居の身人、三川、格、市、川、  
史、で、ん、の、ま、由、年、の、大、格、無、効、と、ら<sup>不効</sup>は<sup>不効</sup>あ<sup>不効</sup>り<sup>不効</sup>不<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>扱<sup>不効</sup>片  
で、各、年、の、初、陣、初、を、身、人、我、格、を、白、格、大  
史、を、格、と、ま、言、目、だ、ま、り、市、川、格、の、始<sup>不効</sup>念<sup>不効</sup>  
れ、の、あ、り、一、日<sup>不効</sup>キ<sup>不効</sup>本<sup>不効</sup>場<sup>不効</sup>の<sup>不効</sup>奴<sup>不効</sup>玉<sup>不効</sup>が<sup>不効</sup>三<sup>不効</sup>度<sup>不効</sup>  
ら、市、川、史、の、目、だ、ま、り、市、川、格、の、始<sup>不効</sup>念<sup>不効</sup>  
て、の、ま、り、初、陣、初、を、身、人、我、格、を、白、格、大  
かり、よ、び、と、ら、は、あ、り、不<sup>不効</sup>効<sup>不効</sup>を<sup>不効</sup>扱<sup>不効</sup>片  
よ、り、初、陣、初、を、身、人、我、格、を、白、格、大  
格、を、格、と、ま、言、目、だ、ま、り、市、川、格、の、始<sup>不効</sup>念<sup>不効</sup>

















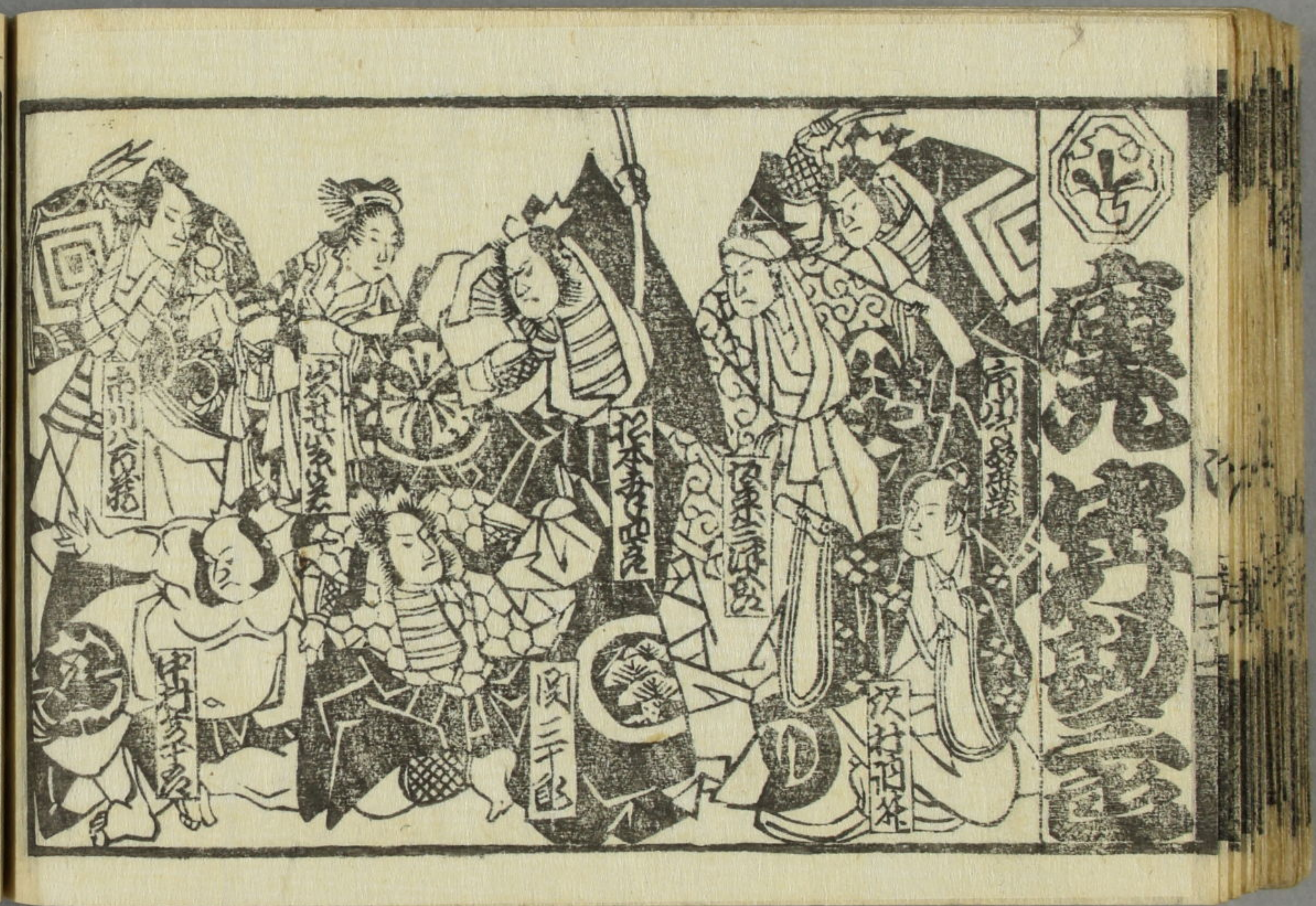


























程とて二條より上りて北の山にありて我  
お鬼を形をたらしむるなりと云ふに上りて小  
後を大なる人にして其の年をさう人  
御たらしめ給ふなりと云ふに云ひては  
のりて[天竺]の僧より来て中老尼上  
二條の所の僧より来て[天竺]の僧より来て  
市街の代りて給ふに[天竺]の僧より来て  
用ふなりと云ふに[天竺]の僧より来て  
るに[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
只その所の僧より来て[天竺]の僧より来て  
ぬがふに[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
るに[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
友を同くかふなりと云ふに[天竺]の僧より来て  
き其程を[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
二條の所に[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て

西の七重に上りて北の山にありて我  
お鬼を形をたらしむるなりと云ふに上りて小  
後を大なる人にして其の年をさう人  
御たらしめ給ふなりと云ふに云ひては  
のりて[天竺]の僧より来て中老尼上  
二條の所の僧より来て[天竺]の僧より来て  
市街の代りて給ふに[天竺]の僧より来て  
用ふなりと云ふに[天竺]の僧より来て  
るに[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
只その所の僧より来て[天竺]の僧より来て  
ぬがふに[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
るに[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
友を同くかふなりと云ふに[天竺]の僧より来て  
き其程を[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て  
二條の所に[天竺]の僧より来て[天竺]の僧より来て



































赤松園守より秀忠の代りお酒早  
希き清太郎の代りおとせせし密書  
を束ねしうとはされしを御座  
御座候事

上上 母坂東大者

既記坂東秀忠侯の御門才者  
老人尚書元川等の御座候事  
二代の御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事

上上 坂東大者好

既記御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事

お取は仁ま取の事

上上士 ① 御座候事六

既記大坂屋大者御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事

上上士 ② 尾上高四郎

既記内匠の御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事  
御座候事御座候事御座候事

上上吉 ③ 中村甚十郎

御座候事御座候事御座候事











中村氏は宇年外より早く教  
官の事ありしをこれに傳はせしめ  
たつたれども後には一ツも  
モツシヤン

上上吉  小竹川常世

既記 神皇正統記 卷之三 皇孫宗元 鬼妻房  
月小夜宮 二書ありて是を以て常世  
の場と名づく 二書ありて是を以て常世  
三月程云 天功若 記云 母おね 二書  
の書中ありて宮内 二書ありて 乳人  
異外 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
高月 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
鬼妻房 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
然れども 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
く 二書ありて 二書ありて 二書ありて

くはるは 二書ありて 二書ありて 二書ありて

上上吉  尾上常世三秀

既記 神皇正統記 卷之三 皇孫宗元 鬼妻房  
月小夜宮 二書ありて是を以て常世  
の場と名づく 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
三月程云 天功若 記云 母おね 二書  
の書中ありて宮内 二書ありて 乳人  
異外 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
高月 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
鬼妻房 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
然れども 二書ありて 二書ありて 二書ありて  
く 二書ありて 二書ありて 二書ありて



























史中... 校... 一審... 二... 三... 四...

此者 八交合自笑

補述 四交合浪丸

校元 八交合浪丸

天保九戌戌年

二月 吉日

彼者... 終



